

卒業生アンケートの結果について

－卒業生から見た苫小牧高専への声－

中津 正志*・阿部 司**・笹村 泰昭***
中村 努****・上木 政美*****

The Result of the Questionnaire to the Graduates from Tomakomai National College of Technology(TNCT)

－ The opinions and demands of the graduates as to the education of TNCT －

Masashi NAKATSU, Tsukasa ABE, Yasuaki SASAMURA, Tsutomu NAKAMURA, Masami UEKI

要 旨

苫小牧高専の教育評価の一環として、全卒業生に対しアンケート調査を実施した。本調査は詳細で広い教育内容について調査するもので、全国高専でも初めての試みである。本報では次の事柄について報告する。(1) アンケート調査の概要、(2) 苫小牧高専における教育の評価、(3) 学生の卒業後の動向

Abstracts

To evaluate the education in TNCT, questionnaires were carried out to all of the graduates. The investigation into such wide and detailed contents was tried for the first time in all the colleges of technology in Japan. As a result of the investigation, the authors have obtained the result that much valuable information and many useful suggestions for education. In this paper, we would like to report on the following subjects, (1) a summary of the investigation, (2) an evaluation of the education and (3) the situation of the students after graduation from TNCT.

Key words : Education Engineering, change of occupation, questionnaire, college graduate, evaluation, independence test

1. は じ め に

苫小牧高専が1964年に開校し1969年(昭和44年)に第1期の卒業生を社会に送り出してから32年の歳月が立ち、その間、大きな経済変動、社会情勢の変化、科学技術の発展があった。このような情勢の中、本校では外部評価の一環として「卒業生から見た苫小牧高専への声」と題してアンケート調査を実施した。アンケート調査はこれまでも多くの実施例があるが、多くは対象が学校、教員、学生^{1) 2) 3) 4) 5)}である。卒業生対象のものは少ない上に調査内容や対象学科、対象卒業生が限定^{6) 7) 8) 9)}されている。本調査は全学

科、全卒業生を対象にした大がかりなもので、調査内容也多岐にわたっている。調査結果については先にまとめた報告書¹⁰⁾に詳しいが、大量のデータの中から要点を読み取るのは困難であり、簡潔にまとめたものが望まれていた。本報では、単純集計を主とした報告書だけでは読み取れないクロス集計結果を新たに加え整理したので報告する。

2. アンケート調査概要

アンケートは大きく9つに分かれており(資料1参照)全設問数は76、総調査項目数は167で、調査対象は1969年(第1期)から1998年(第30期)までの全卒業生とした。卒業後間もない卒業生は対象から外した。

アンケート発送数は3899通、回答数は1335通で発送数に対する回答率は34.5%であった。宛先不明による返送は423通でこれを除いた回答率は38.4%である。この種のアンケートは回収率が低

* 教 授 機械工学科
** 助教授 情報工学科
*** 教 授 物質工学科
**** 助 手 環境都市工学科
***** 助教授 一般教科

いのが通例で、他高専で7)回収率25.5%という比較的高い例があるが、それよりも大幅に高い値になった。卒業時期を5年ごとに区切り回答率を集計した結果を図1に示す。卒業時期が新しくなるにつれほぼ直線的に回答率が低くなっていた。

3. 本校の教育について

3. 1 本校に入学するまでの経緯

高専受験を決めた時期(Q3)(注:Q3は資料のアンケート設問の番号を示す。以下同じ)は中学3年になってからが多く(80%)、さらに49%が夏休み以降に決めていた(図2)。

高専への受験を決めた理由(Q5)は「就職に有利」「専門知識を身につける」「学費が安い」「技術に興味がある」などが多かった。上記3つについて卒業期による変化を見ると(図3)、学費を理由とした数が最近になるにつれて減少し、就職に有利を理由にした数が増加している。この間の社会情勢の変化が伺われる。

中学3年の時の成績(Q7)は5段階の上位、中上位を合わせて91.6%(図4)となっている。鹿児島高専の調査例11)で、県下の新入生対象の一斉学力テストにおいて高専入学者のレベルは、英語で概ね上位20%、数学で上位15%の学力を有しているという報告があるが、本校も成績優秀な生徒が入学していることがわかる。

3. 2 本校での教育について

授業レベルの高さと授業内容の充実度(Q11)について、5つの分野、科目を一つのグラフ(図5)にまとめてみた。人文・社会系が低いのは低学年の時に受ける科目が多いために印象が薄れることと、工科系学校であるため学生の関心が低いと思われる。また実験実習や卒業研究のレベルについて低い率になっているのは今後の反省材料である。

実験実習の充実度について、学科によって違いがないか調べた。情報工学科を除く4学科の回答について、独立検定したところ、自由度15で、 $16.67 < 25.0 = \chi^2(15, 0.05)$ であり、卒業した学科によって意見が異なるとは言えないことがわかった。

授業の教え方(Q13)と授業内容の理解度(Q14)について、同じく5つの分野、科目を一つのグラフ(図6)に示す。専門座学の教え方の良さと理解度に差があることが目を引く。授業レベルが高い

ために、数・理科系と同様理解度が低いように思われる。人文・社会系の理解度も低い、これはもともと文系科目が苦手な理数系学生が多いことや関心の薄さによるものと思われる。北海道大学の調査6)を見ると、「教え方が良くない」と答えた割合は教養教育34.6%、専門教育17%であり本校と似た傾向を示していた。

専門座学の教え方(Q13)について卒業期別に集計すると(図7)60%前後でほぼ一定しており、昔も今も教え方に差がないことがわかった。

自宅での学習状況(Q16)では「大体毎日学習した」が16.2%、「試験前は学習したがほとんどしなかった」が46.9%という結果が出たが、これを卒業期で調べて見ると図8に示すように大きく変化しており、「最近の学生は勉強してない」結果がはっきり表れていた。

成績評価基準(Q18)については1期から5期のいわゆる高専創設期はやはり厳しかったようであるが、それ以降はほとんど一定であった(図9)。

在学中進路変更を考えたことのある人(Q20)は29%もあった。これについては詳細な分析と対応が必要であろう。

本校の施設の整備状況(Q22)は、5段階の1:良く整備されていた、2:整備されていたを合わせて59.8%となったが、卒業時期により大きく異なると思われ調べた。図10を見ると創設期は機材が十分でなく低いのは理解できるが、16期頃から直線的に40%にまで下がってきているのが注目される。すべての施設設備、実験機器類の老朽化が原因のように思われる。

図書館の利用程度(Q23)については、28%が1:非常に良く利用した、2:良く利用したと答えていた。

3. 3 学校生活について

本校の規律(Q25)については、1:厳しい、2:やや厳しいが計8.4%、4:やや緩い、5:緩いが計41%で緩いと感じている卒業生が多いようである。

在学中に悩みや不安を持ったことがある人(Q26)は69.7%もあり、その内容の多くは、勉学、進路、友人(異性も含む)であった(図11)。

悩みを誰に相談したか(Q28)を複数回答してもらった。その結果相談しなかった人の数が多いことと、先生に相談する数が少ないことが目立った(図12)。学生相談室の存在と活動が最近になって学生に浸透してきているので今後は変化がある

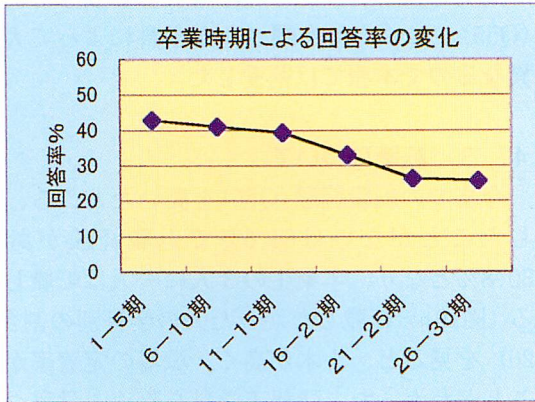


図 1

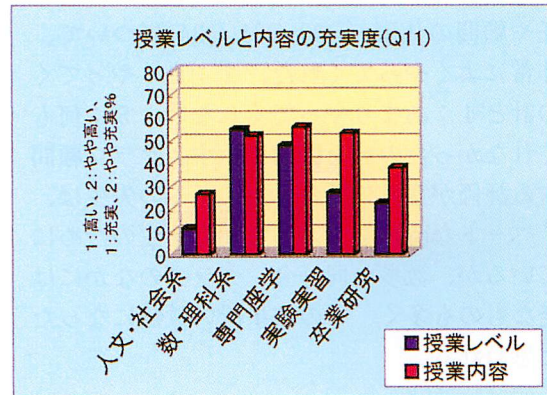


図 5

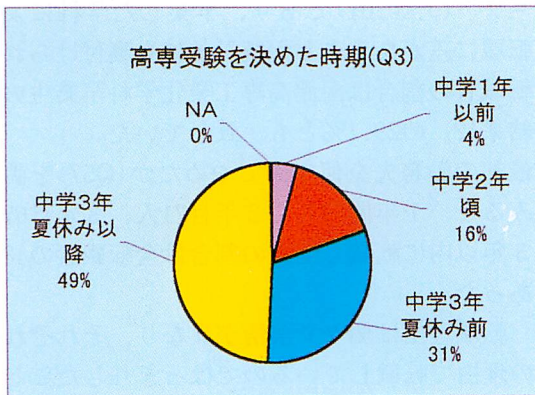


図 2

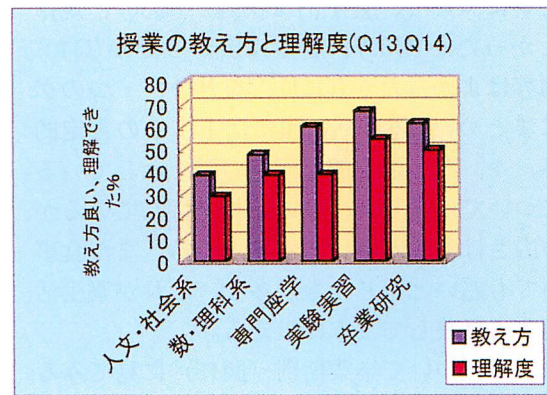


図 6

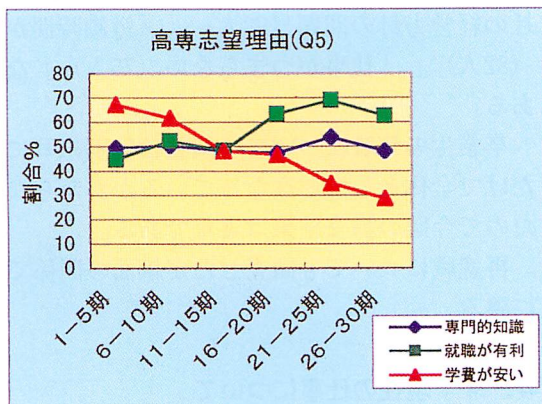


図 3

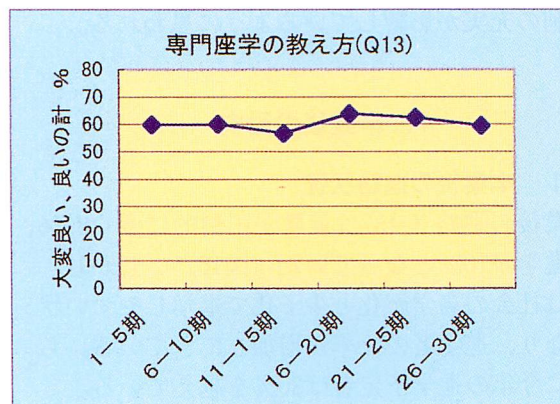


図 7

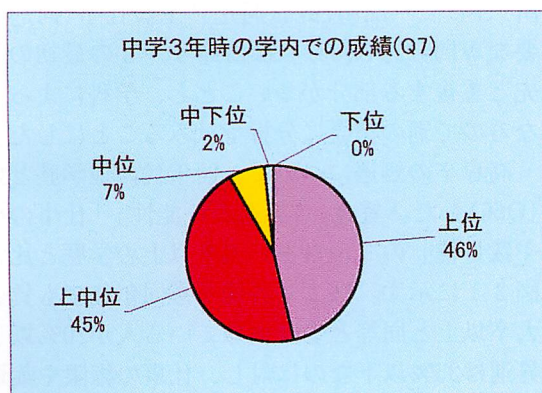


図 4

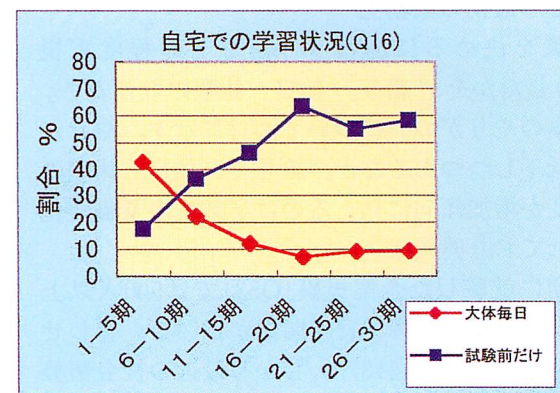


図 8

ものと思われる。

担任や顧問の仕事 (Q30, Q31, Q34) について、1: 非常によくやってくれた、2: 良くやってくれたの計と 4: あまりやってくれない、5: 何もしてくれなかったの計を図13に示す。クラブ顧問に対する評価が意外に低かった。多くの先生は、プライベートな時間をつぶしてまで学生のために働いているが、数多い同好会、クラブのなかには不活発なものも多く、その結果低い数値になったものと思われる。

3. 4 学生寮について

学生寮について、寮生活は快適か (Q30)、規律が厳しかったか (Q39)、居室は広かったか (Q40)、食事内容はよかったか (Q41)、などを、一つのグラフにまとめた (図14)。図には 1, 2 の肯定的な回答、4, 5 の否定的な回答の計を示している。規律については厳しい、緩いが相半ばしているが、居室の広さは多くが狭いと感じている。また食事についても悪いと感じた数が多く、これが寮生活の快適さに反映してように思える。

寮の規律について卒業期別 (図15) に見てみると厳しいと感じる割合が増加している。これは寮生のモラルの低下や共同生活の不慣れ、学校の指導体制の充実が影響しているように思われる。

4. 卒業後の動向

4. 1 卒業後の進路状況

卒業後の進路 (Q43) は就職が圧倒的に多く 89%、次に進学が 10% となっていた (図16)。しかし、最近では社会の高学歴化と少子化で進学しやすい状況になり、進学者の比率が増加してきている。ちなみに今年の進学予定者は 30% を越えている。

4. 2 最初の勤務先

就職を決めるにあたって何をどの程度重視 (Q45) したかを、「給与」「休日・休暇の取り安さ」「仕事のやりがい」について図17に示す。やりがいが低下しつつあるなか、給与や、休日・休暇の重要度が増加傾向に見えるのは卒業生の意識変化が表れており興味深い。

最初に就職した企業規模 (Q53) では 500 人以上の中、大企業が 57%、官庁関係が 13% で、合わせて 70% となった (図18)。しかし最近の社会情勢の変化が大きく、突っ込んだ分析が必要である。

「業種 (Q53)」「勤務形態 (Q54)」「勤務場所 (同)」

「配属部門 (同)」「主な仕事 (同)」「必要な専門知識 (Q55)」についても調べたが学科によって大きく異なるので本報では割愛した。

4. 3 転職について

今までの転職経験 (Q56) を聞いたところ、退職したことがないのは 64.6% で退職経験があるが 30.8% となり、卒業生の 3 人に一人は転職している (図19)。転職しなかった人の学科別の割合 (図20) を見ると、土木が高く、職場の定着率が高いことがわかった。情報工学科を除く 4 学科ついて、独立検定したところ、自由度 9 で、 $143.7 > 21.7 = \chi^2 (9, 0.01)$ であり、卒業した学科によって転職に差があることが統計的にも裏付けられた。転職者の割合は函館高専工業化学科卒業生の調査結果12) の 29.1% とも一致していた。

最初の勤務先を何年間でやめたか (Q57) を調べてみると、1 年間 69 人、2 年目 71 人、3 年目 67 人で 3 年以内に転職した人の割合は全転職者の 48% であった。

転職理由は個々で事情が異なり、それぞれ複数の理由で転職しているのではっきりしたことは今後の分析にまかせるが、理由として多かったのは、「より魅力のある勤務先があった (138 人)」「会社の経営方針の問題 (93 人)」「労働時間が長い (82 人)」「仕事がつまらない (75 人)」などである。

卒業生の転職についての情報は個別に耳にするだけで全体としてどうなっているかわからなかったので今回の調査結果は貴重である。

再就職についても調査したが紙面の関係で別報に譲る。

4. 4 現在の仕事について

「業種、規模 (Q63)」「勤務形態 (Q64)」「勤務場所 (同)」「配属部門 (同)」「主な仕事 (同)」「必要な専門分野 (Q65)」は前節 4. 2 の最初の勤務先と重複する部分が多いことと、学科によって異なるので別の機会に分析を試みることにした。

高専卒の処遇について、同年代の他学歴と比較 (Q66) した。「賃金」「昇進の可能性」「仕事の権限や裁量権」の 3 項目を、大卒以上の学歴と比較し図 2 1 に示す。図より各期とも同年代でも賃金が大卒以上と同等と受け止めている人が 20% 以下、昇進は 25% 以下なのに対し、仕事の権限や裁量権は同等以上と受け止める割合が 40% を越える時期もある。これは、高専卒業生が実際の仕事面で実

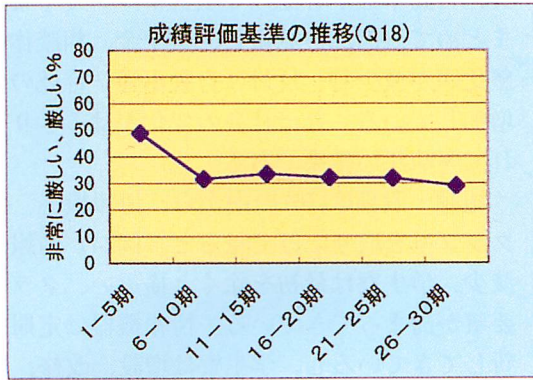


図 9

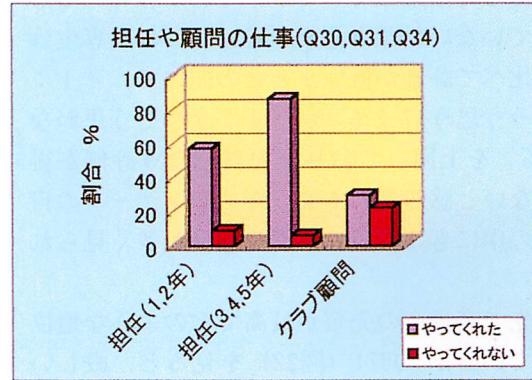


図 13

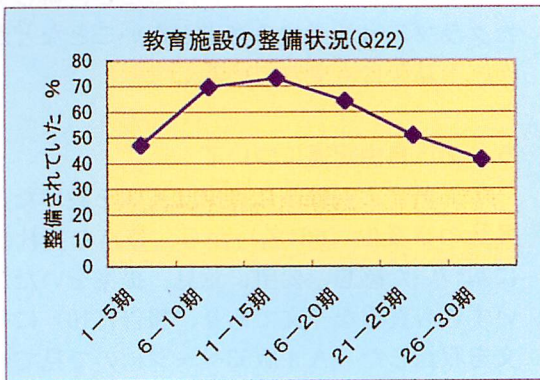


図 10

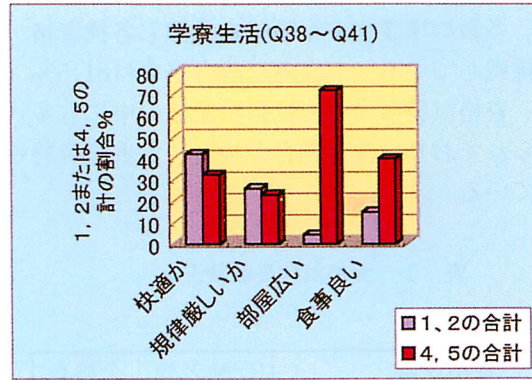


図 14

1,2はYES
3,4はNO

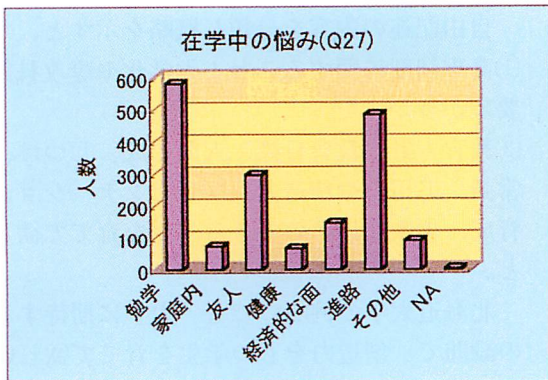


図 11

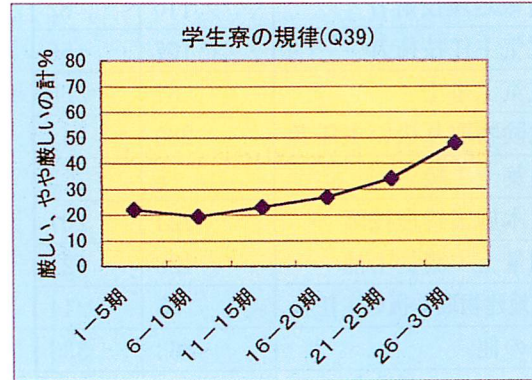


図 15

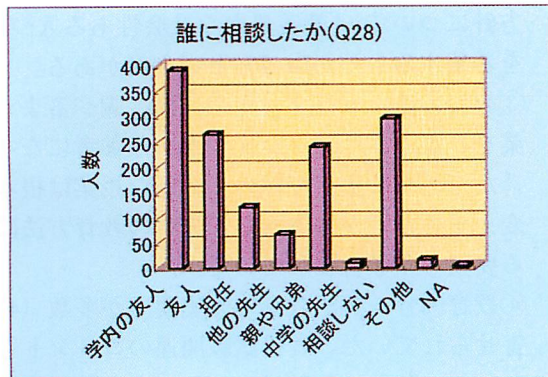


図 12

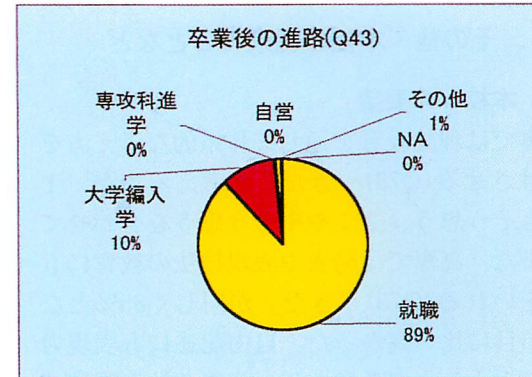


図 16

力を発揮して活躍しているが、それが報われる形になっていない結果と思われる。Q72の高専生は大卒に比べて評価が低いのか？との問いで、「1：とてもそう思う17.2%」が「4：全然そう思わない7.2%」を上回っており実力に見合う評価が得られてないと感じているようだ。アンケートの自由記述の中にもこの辺の不満や意見が多く見られた。

勤務先で高専卒の先輩が最高でどのような地位についているか(Q67) (図22)を見ると、厳しい状況のなかで活躍している様子が伺われる。

資格試験(Q69)の受験者数と合格者数を表1に示す。多数の卒業生が卒業後も勉強し各種資格試験に挑戦している。ちなみに総合格率は81.5%である。資格試験については自由記述の中にも多く触れられており、教育内容の検討に貴重な資料となっている。

表 1 資格試験受験状況

資格試験	受験者数	合格数
1：技術士・技術士補	101	43
2：情報処理技術者	110	82
3：電気主任技術者	107	56
4：電気工事士	81	66
5：危険物取り扱い主任者	280	249
6：建築士1級	5	3
7：土木施工管理技師	224	201
8：測量士・測量士補	128	121
9：宅地建物取り扱い主任者	35	14
10：その他	363	333
合 計	1434	1168

5. その他 本校の将来のことなど

5. 1 本校への要望

「高専では理論教育を通じて体系的な考え方を身につけさせる(Q73)べきだ」と考える人が、1：とてもそう思う、2：ややそう思うを合わせて70%、また「高専では発表や表現技法の教育にもっと力をいれる(Q73)べきだ」が同じく85%となり、他項目に比べ高かった。自由記述にも表現力の不足を訴える文が多数あり、今後の教育課題である。

本校の今後充実すべき項目について、学校生活関係(Q75)の中から、奨学金の充実、相談体制充

実、自動車通学容認の3項目について卒業期別にまとめて(図23)見ると、奨学金、相談体制の要望比率が減少し、反対に自動車通学容認の要望が増加している。経済社会の変化がはっきり読みとれて興味深い結果である。

施設・設備Q(76)の中から、情報機器、学生寮、クラブ室を取り上げて見ると(図24)情報機器は減少、学生寮は最初を除くと横這い、クラブ室は要望が高まってきている。情報機器は定期的に更新してきているし、学生寮は増設、改修、居住条件の向上に努めており頷ける結果である。クラブ室は長い間で老朽化していることと、新しくできたクラブには活動する拠点がないことなどがアンケート結果にも表れている。

5. 2 自由記述について

アンケートの最後に自由記述欄を設けたところ、多数の卒業生(664名)から、豊富な実社会経験に基づいた感想、要望、意見、提案をいただいた。いずれも貴重な一文であり、報告書10)にその全文を収録した(A4版53ページ)ので見ていただきたい。ただしプライバシーに拘わる部分はこちらの判断で割愛した。

自由記述の内容を分類し概略を示すと、

- ①高専制度に関すること：大学化や専攻科設置の要望が多かった。
- ②教育方針、教育目標：人間形成、しつけ、社会常識、応用力や創造力、プレゼンテーション能力育成、柔軟な思考のできる学生を育てて欲しいなど。

北海道大学の例6)でも「大学に期待する事」の設問で「創造力をもつ学生を育てて欲しい」が58%の高率となっており、本校卒業生の声に符合していた。少し古いが、大分高専の調査で、教育方針について、「教養豊かな社会性ある人づくり」を希望するものが54.7%という例がある。

- ③教育方法：「フィールドに出て調べるような授業を」などユニークな提案があり参考になった。「ただ黒板に書くだけの一方的な授業は根本的に変える必要性がある」など先生の教育方法に対する要望も多数含まれていた。

- ④教育内容：英語教育の充実要望が多数(40名)寄せられていた。資格試験関連のコメントも目についた。各科、各科目についても多数記述があった。

- ⑤進路指導：心のケア、進学、就職指導に関する情報の収集、公開への注文があった。

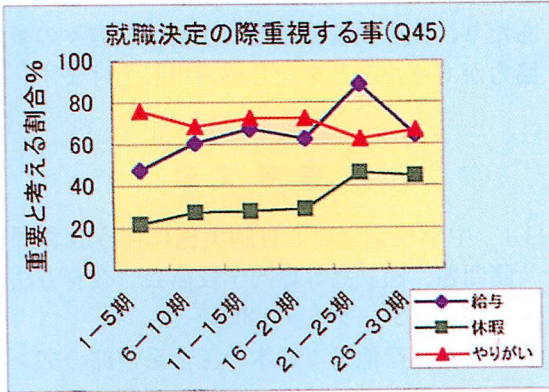


図 17

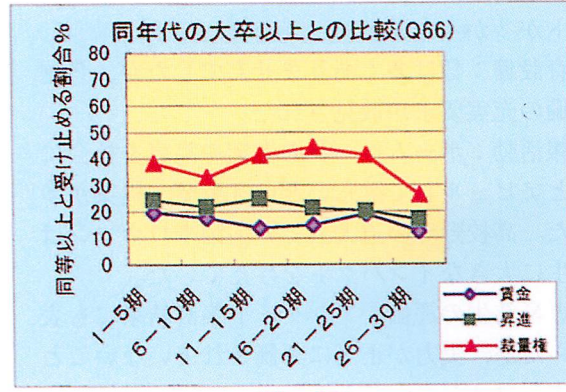


図 21

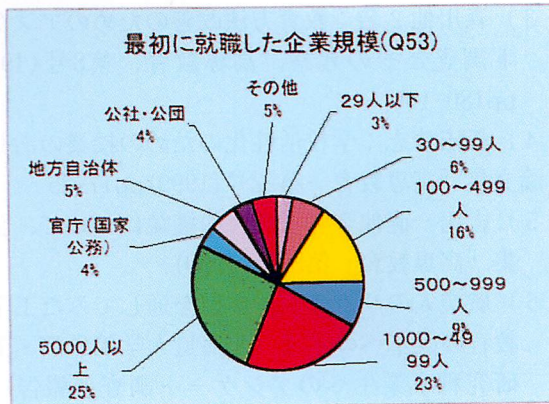


図 18

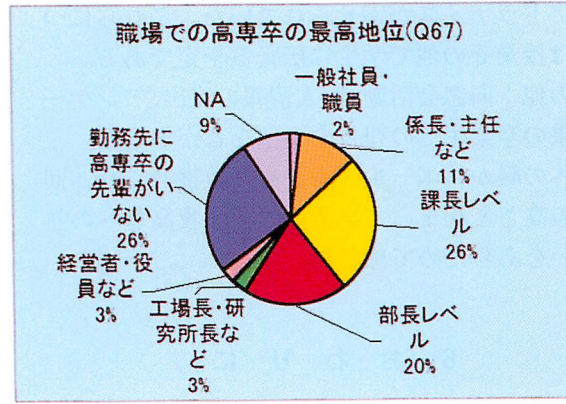


図 22

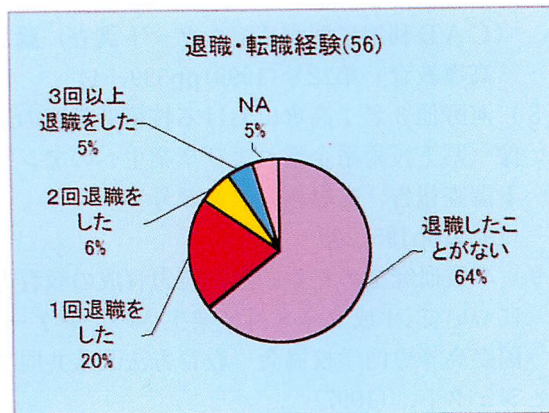


図 19

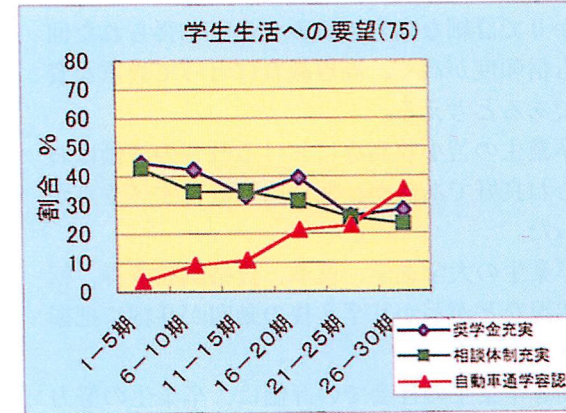


図 23

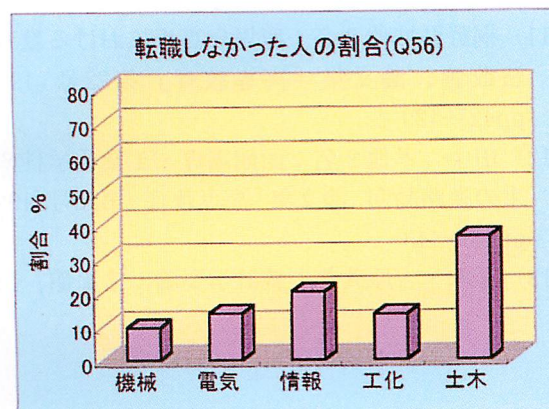


図 20

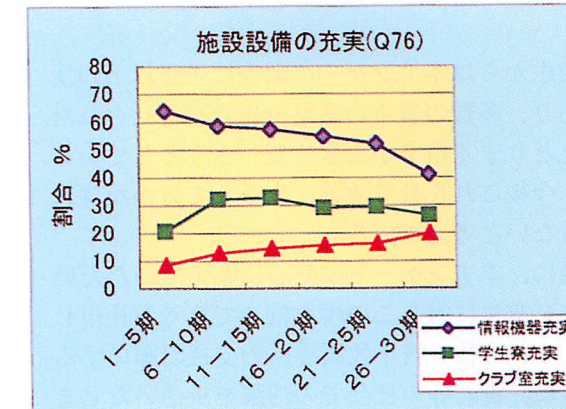


図 24

- ⑥学生寮：学寮生活が良い経験となったというコメントが多かった
- ⑦教育設備：数は多くありませんでしたが、各施設設備の充実要求が散見された。
- ⑧広報活動：ホームページの充実や高専を社会にもっとアピールして欲しいという要望、提案が多かった。高校野球の道大会での活躍やロボコンは卒業生に大きなインパクトを与えていた。
- ⑨高専卒業生の評価：アンケート集計結果にも表れていたが、実力が正当に評価されていないことに対するコメントが多かった。
- ⑩後輩への言葉：自分への反省とともに後輩へ貴重なアドバイスが寄せられていた。これらについては授業その他で学生に伝える予定である。
- ⑪その他：同窓会活動、個人情報の流出、アンケート結果の卒業生への報告の要望などがあった。高専への暖かいエール、謝辞も多数寄せられ、回収率の高さと相まって卒業生の苫小牧高専への熱い思いをあらためて感じた。

6. お わ り に

以上をまとめると、

- 1) 本アンケート調査は全国高専でも初めてのものがかりで詳細な内容の試みであり、得られた回答も信頼度が高く、高専教育にとって貴重な資料であると考えます。
- 2) 卒業生の苫小牧高専における教育の評価はおおむね良好であるが、個別には改善すべき点があった。
- 3) 卒業生の大学進学、就職、資格試験取得、転職状況などがわかり卒業後の動向が詳細に把握できた。
- 4) 高専卒業生の社会での評価は、卒業生の努力によって高い評価を得ているが、学歴社会の中で実力が評価されていない職場も多い。

卒業生からは本アンケート調査に予想以上の反響があり、多数の貴重な意見や提言が寄せられた。高専をとりまく情勢が大きく変わろうとしている今日、今後これを教育改善に生かして行かなければならないと考えている。

最後に、本アンケートに熱心に答えていただいた本校卒業生に対しこの場を借りて篤くお礼申し上げます。今後も苫小牧高専への支援お願いするとともに、貴君等の社会での活躍を祈念いたします。

またアンケートの実施および本報をまとめるにあたり、佐久間校長はじめ事務部の方々の多大な協力があったことを記し感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 中学校完全週5日制実施に伴う教育課程の諸問題、国立高等専門学校協会 教育方法改善共同プロジェクト (2000)
- 2) 武田邦彦他名：日本の工学系学部アンケートから見た工学教育の現状と課題の解析、工学教育、Vol.47 no.6(1999)pp20-28
- 3) 森川他2名：教育方法改善のためのアンケート調査とその考察、高専教育、第8号(1985)pp180-194
- 4) 飯田清志：学校活性化のための授業のあり方論文集「高専教育」第22号(1999)pp17-25
- 5) 吉田 直他2名：学習の継続について、論文集「高専教育」第22号(1999)
- 6) 職業人のリカレント学習を通してみた工学部教育の改革への示唆（北海道大学工学部・工学研究科卒業生へのアンケート調査の報告）、(2000)
- 7) 岡 昭二他2名：CADは使われているのか（CAD利用に関するアンケート調査）論文集「高専教育」第22号(1999)pp539-544
- 8) 河野他3名：高専における技術者教育の未来像（県下技術系企業および卒業生へのアンケート調査報告、高専教育、第8号(1985)pp195-209
- 9) 卒業研究をめぐる創造的能力育成の教育方法について(平成9年3月卒業生へのアンケート)、国立高等専門学校協会 教育方法改善共同プロジェクト、(1997)
- 10) 卒業生から見た苫小牧高専への声(卒業生アンケート報告書) 苫小牧工業高等専門学校,2000
- 11) 桐野弘城他3名：鹿児島高専における教育方法改善、論文集「高専教育」第22号(1999)pp421-429
- 12) 田中 孝他2名：函館高専・工業化学科卒業生の進路動向、論文集「高専教育」第22号(1999)pp439-443
- 13) 青木・吉原共著：統計学要論、培風館、1994

(平成12年11月30日受理)

資料 1 卒業生アンケート調査内容

注：文章は変えておりませんが、紙面の関係上実際の調査用紙の書式を変化させております。
アンケートの最初に、住所、性別、年齢、勤務先、業種、役職名の記入欄あり

本校に入学するまでの経緯についてうかがいます

- Q 1 貴方は本校に何年に入学（編入学）しましたか。
- Q 2 貴方は何学科に入学（編入学）しましたか。
1. 電気工学科 2. 機械工学科 3. 工業化学科 4. 土木工学科 5. 情報工学科
- Q 3 貴方は本校を受験することを決めたのはいつ頃でしたか。
1. 中学1年以前 2. 中学2年の頃 3. 中学3年の夏休み前 4. 中学3年の夏休み以降
- Q 4 貴方は本校への受験をどのようにして決めましたか。（複数回答可）
1. 中学校の先生からの勧め 2. 中学の先輩や同級生の影響を受けて 3. 高専のパフレットなどを見て自分自身で
4. 親や親戚の人の勧め 5. その他
- Q 5 本校への受験を決めた理由は何ですか。（複数回答可）
1. 専門的知識を身につける 2. 技術に興味があった 3. 就職が有利である 4. 大学に編入することができる 5. 中学3年の成績が高専のレベルに合っていた 6. 受験勉強をしなくても高等教育がうけられる 7. 学費が安い 8. 地理的に便利 9. 寮生活ができる 10. 身近に高専出身者がいた 11. その他
- Q 6 本校の入学試験はどうでしたか
1. 難しかった 2. 少し難しかった 3. どちらともいえない 4. 少し易しかった 5. 易しかった
- Q 7 中学3年の時の成績は、学年ではどのあたりでしたか。
1 上位 2 3 中位 4 5 下位
- Q 8 本校に入学した感想はどうでしたか。（入学1～2年後の感想）
1. 大変良かった 2. 良かった 3. どちらともいえない 4. あまり良くなかった 5. 悪かった
- Q 9 本校への入学や学科の選択をしたとき、将来の職業についてどの程度考えていましたか。
1. はっきりした希望があった。 2. 大体的方向は決めていた 3. 特に将来の職業は考えていなかった
- Q 11 本校に入学した際、本校および学科は第1志望の進路先でしたか。
1. 第一志望 2. 第二志望 3. 第三志望以下

本校の教育について伺います

- Q 11 貴方は本校の教育の次のような点について、在学中にどのように感じましたか。
それぞれ一つずつ○をつけてください
(A) 分量（時間数）は 1 多すぎる 2 やや多い 3 ちょうどよい 4 やや少ない 5 少なすぎる
(注：各項目について5段階で評価)
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
(B) 授業のレベルは 1 高い 2 やや高い 3 普通 4 やや低い 5 低い
(注：各項目について5段階で評価)
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
(C) 内容は 1 充実している 2 わりと充実している 3 どちらともいえない 4 あまり充実していない 5 充実していない
(注：各項目について5段階で評価)
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
- Q 12 貴方は、本校の教育の次のような点について、在学中にどのくらい熱心に取り組みましたか。それぞれ一つずつ○をつけて下さい。(注：下の各項目について5段階で評価) 1 とても熱心に取り組んだ 2 やや熱心に取り組んだ 3 どちらでもない
4 あまり熱心に取り組まなかった 5 全然熱心に取り組まなかった
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
- Q 13 本校の先生の教え方はどうでしたか。それぞれ一つずつ○をつけて下さい。
(注：下の各項目について5段階で評価) 1 大変良かった 2 良かった 3 どちらでもない 4 あまり良くなかった 5 悪かった
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
- Q 14 貴方は、本校の授業内容をどの程度理解することができましたか。それぞれ一つずつ○をつけて下さい。
(注：下の各項目について5段階で評価) 1 大変良く理解できた 2 良く理解できた 3 どちらでもない
4 あまり理解できなかった 5 全然理解出来なかった
1. 人文・社会系の一般教育 2. 数学・理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
- Q 15 貴方の授業への出席率はどうでしたか。
1. 大変良かった 2. 良かった 3. 普通 4. 余り良くなかった 5. 悪かった
- Q 16 貴方は自宅などでどの程度学習しましたか。
1. 大体毎日勉強した 2. 時々学習した 3. 試験前は学習はしたものの殆どしなかった
- Q 17 貴方は「実験レポート」の作成について、どのように思っていましたか。
1. 非常に苦勞した 2. やや苦勞した 3. 苦勞しなかった

Q18 貴方は本校の成績評価の基準について、どのように思っていましたか。

1. 非常に厳しい 2. 厳しい 3. どちらともいえない 4. 甘い 5. 非常に甘い

Q19 進級できずに留年したり、退学する学生がみられますが、これについてどのように感じていましたか。

1. 厳しいと思った 2. 当然のことと思った 3. 緩やかにしてほしいと思った

Q20 貴方は本校在学中、進路変更を考えたことがありますか。

1. ある 2. ない

Q22 変更先は次のどれですか（注：1 ある場合）

1. 普通高校 2. 工業高校 3. 専修・各種学校 4. 大学 5. 就職 6. その他

Q22 本校の教育施設（実験施設、視聴覚施設等）の整備状況はどうでしたか。

1. 良く整備されていた 2. 整備されていた 3. 普通 4. 少し悪かった 5. 悪かった

Q23 貴方は本校の図書館をどの程度利用しましたか。

1. 非常に良く利用した 2. 良く利用した 3. まあまあ利用した 4. あまり利用しなかった 5. 利用しなかった

Q24 貴方は本校の情報処理施設（電算室、CAI室）を、授業時間以外にどの程度利用しましたか。

1. 非常に良く利用した 2. 良く利用した 3. まあまあ利用した 4. あまり利用しなかった 5. 利用しなかった

学校生活についてうかがいます

Q25 本校の規律についてどのように思いましたか。

1. 厳しい 2. やや厳しい 3. 普通 4. やや緩い 5. ゆるい

Q26 貴方は在学中に悩みや不安を持ったことがありますか。

1. 持ったことがある 2. 持ったことがない

Q27 どのような悩みごとか、次の中から挙げて下さい。（複数回答可）

1. 学業成績等学校の勉学についてのこと 2. 家庭内の問題にかかわること 3. 異性を含む友人のこと
4. 身体の健康のこと 5. 経済的な面によること 6. 就職、大学編入等進路のこと 7. その他

Q28 貴方は悩みごとを誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 学内の友人 2. 友人 3. 担任の先生 4. 他の先生 5. 親や兄弟 6. 中学校の先生 7. 相談しなかった 8. その他

Q29 貴方は在学中にどんな友人がいましたか。

1. 親友といえる人がいた 2. 気がねなく話し合える人がいた 3. 遊び友達がいた 4. 会ったら話す程度の人はいた
5. 殆どいない

Q30 貴方の担任の先生は、担任としての仕事をしていたと思いましたか。（1～2学年の担任）

1. 非常に良くやってくれた 2. 良くやってくれた 3. 普通 4. あまりやってくれなかった 5. 何もしてくれなかった

Q31 貴方の担任の先生は、担任としての仕事をしていたと思いましたか。（3～5学年の担任）

1. 非常に良くやってくれた 2. 良くやってくれた 3. 普通 4. あまりやってくれなかった 5. 何もしてくれなかった

Q32 貴方はクラブ活動に参加していましたか。

1. 体育系クラブ 2. 文化系クラブ 3. 体育系と文化系の両方 4. 参加していない

Q33 クラブ活動を継続しましたか、それとも途中でやめましたか。

1. 継続した 2. 途中でやめた 3. 継続したものも途中で止めたものもある

Q34 クラブ顧問の先生の指導はどうでしたか。

1. 大変良かった 2. 良かった 3. 普通 4. あまり良くなかった 5. 良くなかった

Q35 貴方は在学中にアルバイトをしましたか。

1. 非常に多くした 2. よくした 3. 少しした 4. しなかった

Q36 貴方は在学中に自動車の免許を取得しましたか。

1. 取得した 2. 取得しなかった

本校の学生寮についてうかがいます

Q37 学生寮（蒼冥寮）に入寮しましたか。

1. 入寮した 2. 入寮しない

「1. 入寮したとお答えの方のみ回答願います。以下、ご質問38～41まで」

Q38 寮での生活はどうでしたか。

1. 快適であった 2. 少し快適だった 3. どちらともいえない 4. あまり快適でなかった 5. 快適でなかった

Q39 学生寮の規律はどうでしたか。

1. 厳しい 2. やや厳しい 3. 普通 4. ややゆるい 5. ゆるい

Q40 居室（部屋）の広さはどうでしたか。

1. 広かった 2. やや広かった 3. ちょうど良かった 4. やや狭かった 5. 狭かった

Q41 食事の内容はどうでしたか。

1. 良かった 2. やや良かった 3. まあまあであった 4. やや悪かった 5. 悪かった

本校卒業後の進路についてうかがいます

Q42 貴方は本校を卒業したのは何時ですか。

Q43 本校卒業後の貴方はどうしましたか。

1. 就職した 2. 大学に編入学した 3. 高専の専攻科に進学した 4. 自営についた 5. その他

Q44 貴方が卒業後に就職することを決めた重要な理由はどのようなことでしたか。

1. 経済的に自立したかった 2. 高専で十分な専門知識を得られなかったから 3. 親などに勧められた 4. 進学するよりも高専卒の方が就職先があるから 5. 進学するには成績が十分でなかった 6. 勉強よりも実際の仕事に関心があった
7. 経済的な理由で進学できなかった 8. その他

Q45 貴方は就職先を決めるに当たって、次の各項目をどの程度重視しましたか。それぞれ一つに○をつけて下さい

- (1. 非常に重要 2. やや重要 3. どちらでもない 4. あまり重要ではない 5. 重要でない 注: 下記のそれぞれの項目について)
1. 規模 2. 安定性 3. 給与 4. 労働時間 5. 休日・休暇の取りやすさ 6. 職場環境 7. 仕事自体の面白さ・やりがい 8. 自分の専門知識・資格との関連 9. 昇進の可能性 10. 女性活用の可能性 11. 社風、職場の雰囲気 12. 本校とのつながり 13. 勤務地 14. 私生活の充実

Q46 貴方が最終的に就職が決まるまで何社に応募しましたか。

Q47 貴方は最終的に就職を決めた就職先に応募する際、次の項目をどの程度考慮しましたか。 それぞれ一つに○をつけて下さい。

- (1. とても考慮した 2. やや考慮した 3. あまり考慮しなかった 4. 全然考慮しなかった 注: 下記について)
1. 自分の学業成績 2. 自分の適性(向き・不向き)

Q48 今ふりかえてみて、本校卒業時点で就職先を選ぶに当たって、もっとこうの方が良かったと思うことがありますか。あてはまるものをすべて挙げてください。(複数回答可)

1. 長期的将来の見通しを持っておくべきだった 2. 就職先の選択の基準をはっきりさせておくべきだった 3. 自分の適性についてもっと考えるべきであった 4. 多くの企業情報を収集しておくべきだった 5. 企業内のキャリアコースについてもっと調べておくべきであった 6. 周囲の意見を聞いておくべきであった 7. 特にない
- 「2. 大学に編入学したとお答えした方のみ回答願います。以下、ご質問49～52まで」

Q49 大学に編入学することを決めたのはいつころですか。

1. 本校に入学する以前 2. 本校に入学した後

Q50 大学に編入した動機は、どのようなことからでしたか。あてはまるものをすべて挙げてください。(複数回答可)

1. 高専の専門教育よりも高度の専門知識を身につけたかったから 2. 高専の専門教育とは異なる専門知識を身につけたかったから 3. 高専の一般教育よりも幅広い教養を身につけたかったから 4. 就職を有利にするため 5. 大学院に進学するため 6. 就職後のキャリアを有利にするため 7. 高専の先生に勧められたから 8. 親に勧められたから 9. 高専の自分の成績が良かったから

Q51 大学編入学後の勉学生活・学生生活についていかがいます。 それぞれ一つに○をつけてください。

- (1. そう思う 2. どちらともいえない 3. そう思わない 注: 下の各項目について)
1. 一般教育の面でついていくのが大変だ 2. 専門教育の面でついていくのが大変だ 3. 語学教育の面でついていくのが大変だ 4. 専門教育の内容が高専と重複している 5. 大学の雰囲気と人間関係にとけ込みにくい

Q52 大学を編入学した後は

1. 学部を中退した 2. 学部を卒業した 3. 修士課程を終了した 4. 博士課程を終了した

最初の勤務先についていかがいます

Q53 貴方が本校を卒業しもしくは大学をそつぎょうし、最初に就職した勤務先についてお答え下さい。

- (A) 最初に就職したのは 19**年 本社の所在地 () 都道府県
- (B) 最初の勤務先の企業の業種(一つに○を)

1. 建設業 2. 電機・機械製造業 3. 化学・鉄鋼等素材製造業 4. 食品・繊維等消費財製造業 5. 卸売・小売業・飲食店 6. 金融・保険業 7. 運輸・通信・電気・ガス 8. ソフトウェア・情報処理 9. 教育 10. その他サービス業 11. 公務 12. その他

- (C) 企業の規模(全社の常用雇用者数)(一つに○を)

1. 29人以下 2. 30～99人 3. 100～499人 4. 500～999人 5. 1000人～4999人 6. 5000以上 7. 官庁(国家公務)
8. 地方自治体 9. 公社・公団 10. その他、あてはまらない

Q54 最初に配属された職場についてお答え下さい。

- (A) 勤務の形態(一つに○を)

1. 一般社員・職員 2. 自営・家族従事者 3. パート、アルバイト、臨時職員 4. その他

- (B) 勤務の場所(一つに○を)

1. 本社・本庁 2. 支社、支所、営業所 3. 研究所 4. 工場・現場 5. 出向 6. 海外 7. その他

- (C) 配属部門(一つに○を)

1. 研究部門 2. 開発・設計部門 3. 情報処理部門 4. 製造・工事・現場 5. 管理・企画部門
6. 総務・経理部門 7. 営業・販売部門 8. 人事・教育部門 9. 国際部門 10. その他

- (D) 貴方の主な仕事(一つに○を)

- 技術 1. 開発・設計 2. 生産技術 3. 情報処理 4. サービスエンジニア 5. 生産品質管理 6. 技術設計管理
7. 調査企画 8. その他の技術職

- 技能 9. 生産技能職 10. 保全職 11. その他の技能職

- 専門 12. 教員 13. 研究職 14. その他の専門職

- 事務 15. 経理・財務 16. 人事・総務 17. 教育・研修 18. 企画・調査・広報 19. 仕入・商品管理 20. 工程・資材管理 21. 事務補助・一般職 22. その他の事務

- 営業販売 23. 営業(法人相手)・セールスエンジニア 23. 営業(個人相手)

- その他 25. 店頭販売 26. 運輸・通信の職業 27. 保安・サービスの職業 28. その他
- Q55 最初に配属された仕事に必要な専門分野は、次のどれにありましたか。
1. 高専での専攻と対応した専門分野
 2. 高専での専攻を含む複合的な専門分野
 3. 高専での専攻と異なる専門分野
 4. 特に専門分野を必要としない

退職・転職経験についてうかがいます

- Q56 今までに退職・転職（以下、「退職という。」）をされたことがありますか。
1. 退職したことがない
 2. 1回退職した
 3. 2回退職した
 4. 3回以上退職した
- 「退職したとお答えした方のみ回答願います。以下、ご質問57～61まで」
- Q57 退職された方は、最初の勤務先に何年勤めましたか。
- Q58 最初の勤務先を辞めた理由は何ですか。あてはまるものをすべて挙げて下さい。（複数回答可）
1. 仕事がつまらない
 2. 専攻や資格が生かせない
 3. 仕事の量が多すぎる
 4. 労働時間が長い
 5. 通勤時間が長い
 6. 給与が少ない
 7. 昇進の可能性が少ない
 8. 休暇が少ない・取れない
 9. 職場の人間関係の問題
 10. 会社の経営方針の問題
 11. 結婚・出産・介護など家事都合
 12. 健康上の理由
 13. 事業の縮小・倒産など会社の都合
 14. 初めから短期間働くつもりであった
 15. より魅力のある勤務先、仕事があった
 16. 仕事以外のやりたいことがあった
 17. その他
- Q59 退職するにあたり、誰と相談しましたか。（複数回答可）
1. 友人
 2. 親や兄弟
 3. 高専の先生
 4. 会社の同僚
 5. 知人
 6. 相談しなかった
 7. その他
- Q60 退職した後、再就職されましたか。
- Q61 その再就職先についてお答え下さい。
- (A) 再就職した時期 1 9 * * 年
- (B) 入職の経路（○はいくつでも） 1. 就職情報誌 2. 新聞広告・チラシ・貼り紙 3. 家族・知人の縁故
4. 出身校関係の縁故 5. 引き抜き・ヘッドハンター 6. 民間職業紹介所 7. 職業安定所の紹介
8. 自営・家事従事 9. その他
- (C) 前の勤務先と比べて次のような点はどうですか（それぞれ一つに○）
（注：下記項目ごとに 1. 大きい、多い、長い、良い、強まる 2 変わらない 3. 小さい、少ない、短い、悪い、弱まる の3段階で評価）
1. 規模
 2. 安定性
 3. 事業内容の発展性
 4. 給与
 5. 労働時間
 6. 休日・休暇のとりやすさ
 7. 職場環境
 8. 仕事自体の面白さ・やりがい
 9. 専門知識・資格との関連
 10. 昇進の可能性
 11. 社風、職場の雰囲気
 12. 卒業校とのつながり
 13. 勤務地
 14. 私生活の充実
- (D) 再就職を選ぶにあたって最も重要であったのは、上記1～14のうちどれですか。

現在のお仕事についてうかがいます

- Q62 貴方は現在働いていますか。
1. 主に仕事をしている
 2. 主に家事をしている
 3. 大学院、その他の学校に在学中
 4. 仕事を探している
 5. その他
- Q63 現在の勤務先（現在働いていない場合は最近までの勤務先）について、お答えください。
- (A) 就職した時期 1 9 * * 年 (B) すでに退職した方のみ 退職した時期 1 9 * * 年、勤務先の本社の所在地
- (C) 勤務先の業種（自営の業種）（一つに○を）
1. 建設業
 2. 電機・機械製造業
 3. 化学・鉄鋼等素材製造業
 4. 食品・繊維等消費財製造業
 5. 卸売・小売業・飲食店
 6. 金融・保険業
 7. 運輸・通信・電気・ガス
 8. ソフトウェア・情報処理
 9. 教育
 10. その他サービス業
 11. 公務
 12. その他
- (D) 勤務先の規模（全社の常用雇用者数）（一つに○を）
1. 29人以下
 2. 30～99人
 3. 100～499人
 4. 500～999人
 5. 1000人～4999人
 6. 5000以上
 7. 官庁（国家公務）
 8. 地方自治体
 9. 公社・公団
 10. その他、あてはまらない
- Q64 現在の仕事（現在働いていない場合は最近までの仕事）について、お答えください。
- (A) 勤務の形態・地位（一つに○を）
1. 一般社員・職員
 2. 係長・主任など
 3. 課長以上の管理職
 4. 経営者・役員・自営業主
 5. 家族従業者
 6. パート、アルバイト、臨時職員
- (B) 勤務の場所（一つに○を）
1. 本社・本庁
 2. 支社、支所、営業所
 3. 研究所
 4. 工場・現場
 5. 出向
 6. 海外
 7. その他
- (C) 配属部門（一つに○を）
1. 研究部門
 2. 開発・設計部門
 3. 情報処理部門
 4. 製造・工事・現場
 5. 管理・企画部門
 6. 総務・経理部門
 7. 営業・販売部門
 8. 人事・教育部門
 9. 国際部門
 10. その他
- (D) 貴方の主な仕事（一つに○を）
- 技術 1. 開発・設計 2. 生産技術 3. 情報処理 4. サービスエンジニア 5. 生産品質管理 6. 技術設計管理
7. 調査企画 8. その他の技術職
- 技能 9. 生産技能職 10. 保全職 11. その他の技能職
- 専門 12. 教員 13. 研究職 14. その他の専門職

事務 15. 経理・財務 16. 人事・総務 17. 教育・研修 18. 企画・調査・広報 19. 仕入・商品管理
20. 工程・資材管理 21. 事務補助・一般職 22. その他の事務
営業販売 23. 営業（法人相手）・セールスエンジニア 24. 営業（個人相手） 25. 店頭販売
その他 26. 運輸・通信の職業 27. 保安・サービスの職業 28. その他

Q65 最初に配属された仕事に必要な専門分野は次のどれにありましたか。

1. 高専での専攻と対応した専門分野 2. 高専での専攻を含む複合的な専門分野 3. 高専での専攻と異なる専門分野
4. 特に専門分野を必要としない

Q66 現在の仕事（現在働いていない場合は最近までの仕事）では、高専卒の社員・職員の処遇は同年齢の他の学歴の人と比べてどうですか。それぞれ一つに○をつけて下さい。（注：下の項目について 1. 修士課程修に類似 2. 大学工学部卒に類似 3. 高卒に類似 4. 大学工学部と高卒の中間 5. その他）

（A）賃金水準 （B）昇進の可能性 （C）配属先の部門 （D）仕事の権限や裁量権 （E）仕事と専攻分野との関連度

Q67 現在の勤務先（現在働いていない場合は最近までの仕事）で、高専卒の先輩は最高でどのような地位まで到達しますか。

1. 一般社員・職員 2. 係長・主任など 3. 課長レベル 4. 部長レベル 5. 工場長・研究所長など 6. 経営者・役員
など 7. 勤務先に高専卒の先輩がいない

Q68 これまでの職場で経験したすべての仕事に○をつけてください。

技術 1. 開発・設計 2. 生産技術 3. 情報処理 4. サービスエンジニア 5. 生産品質管理 6. 技術設計管理
7. 調査企画 8. その他の技術職

技能 9. 生産技能職 10. 保全職 11. その他の技能職

専門 12. 教員 13. 研究職 14. その他の専門職

事務 15. 経理・財務 16. 人事・総務 17. 教育・研修 18. 企画・調査・広報 19. 仕入・商品管理

20. 工程・資材管理 21. 事務補助・一般職 22. その他の事務

営業販売 23. 営業（法人相手）・セールスエンジニア 24. 営業（個人相手）

その他 25. 店頭販売 26. 運輸・通信の職業 27. 保安・サービスの職業 28. その他

Q69 これまでに、次のような資格試験をうけましたか。またその結果はどうか。それぞれ一つに○をつけてください。

（注：下の項目について 1. 受けなかった 2. 受けた（不合格） 3. 合格した）

1. 技術士・技術士補 2. 情報処理技術者 3. 電気主任技術者 4. 電気工事士 5. 危険物取扱主任者 6. 建築士1級
7. 土木施工管理技師 8. 測量士・測量士補 9. 宅地建物取扱主任者 10. その他

Q70 本校の教育が次のような点で見て、卒業後の職場生活の中でどれほど役に立ちましたか。（注：下の項目について 1. とても役立った 2. やや役立った 3. どちらでもない 4. あまり役立たなかった 5. 全然役立たなかった）

1. 人文・社会系の一般教育 2. 理科系の一般教育 3. 専門科目の座学 4. 専門科目の実験・実習 5. 卒業研究
6. クラブやサークル等の活動 7. 学生会や寮生会の活動

その他本校の将来のこと等を伺います。

Q71 貴方は本能以で勉強されたことについて、どのように思っておりますか。

1. 非常によかった 2. 良かった 3. どうとも思わない 4. あまり良くなかった 5. 良くなかった

Q72 次のような意見について貴方はどう思いますか。それぞれ一つに○をつけてください。

（注：下の項目について 1. とてもそう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. 全然そう思わない）

1. 高専卒業生に対する社会からの人材ニーズは今後ますますかかる。 2. 高専卒業生は大卒に比べて不当に評価が低い
3. 高専卒業生は少数派であるため職場内での位置づけが不安定だ。 4. 高専卒業後に大学や専攻科でさらに教育を受ける
ことが不可欠だ 5. 高専の専門教育で得たものは他の領域にも柔軟に応用できる 6. 高専の教育は専門に分化し過ぎな
い方が望ましい 7. 高専での専門教育は企業現場に比べて遅れており役に立たない 8. 高専では理論よりも、実務に役
立つ実践的な教育を行うべきだ 9. 高専では理論教育を通じて体系的な考え方を身につけさせるべきだ 10. 高専では人
文・社会科学の一般教育にもっと力を入れるべきだ 11. 高専では発表や論文の表現技法の教育にもっと力を入れるべきだ

Q73 本校の将来のことについてお聞きしますが、どのような学校であればいいと思いますか。

1. 現在の5年一貫教育でよいと思う 2. 他的高専では専攻科（2年修了）を設置しているので、本校も専攻科を設置するべ
きである。 3. 大学にするべきである。 4. 中堅技術者育成の目的も薄らいでいるので、特になくても差し支えないと思う
5. その他

貴方は本校の卒業生として本校の将来を考えた時、今後ますます充実すべきと特に感じられたことを挙げてください。

Q74 教育関係について（複数回答可）

1. 教官数の充実 2. 一般教科での教官陣の充実 3. 専門学科での教官陣の充実 4. カリキュラムの充実 5. 資格取得
可能な授業の充実 6. 単位修得を厳しく 7. 時間割を厳しく 8. 単位認定・試験を厳しく 9. その他

Q75 学校生活について（複数回答可）

1. 各種奨学金の充実 2. 教官との相談体制の充実 3. 学生相談室の充実 4. クラブ活動への支援体制の充実
5. 就職・進学指導体制の充実 6. 自動車免許取得の容認 7. 自動車通学の容認 8. 事務窓口での対応の充実

Q76 施設設備について（複数回答可）

1. 教育施設の充実 2. 図書館の充実 3. 視聴覚施設の充実 4. 情報処理機器の充実 5. 学生の厚生施設の充実
6. 学生寮の充実 7. 体育施設・設備の充実 8. 合宿所の充実 9. クラブ室の充実

最後になりますが、本校に対してのご意見・ご要望等がありましたら、どのようなことでも構いません、ご記入ください。

お忙しいところ、本アンケートにご協力して頂きありがとうございました。貴方様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。

